

ものを食べない、食事を拒否…

⇒声をかけながらいっしょに食事をしましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

目に付く食べ物を片っ端から食べたがっていた人も、認知症の症状が進むにつれ、次第に食べなくなってきました。このようなときは、食べない原因が自然の経過による老衰のためか、病的なものか判断し、対処しなければなりません。

高齢者は発熱や咳などの症状がないのに、食欲が急に落ちたときは、風邪や肺炎など、**呼吸器感染症**にかかっている場合があります。

また、**義歯**が合わない、**虫歯**ができたなどの理由で食べたがらなくなる人もいます。噛む力や飲み込む力が弱くなっていたり、味を感じにくくなっていたりして、食欲がわからないのかもしれない。

そのほか、食べ物に毒が入っているなどの**妄想**、日時や状況などを判断できなくなる“見当識障害”による恐怖感など**精神的な理由**や、騒がしくて落ち着かない、模様替えをしたなど**環境的な要因**も考えられます。

【 対応方法 】…食欲が落ちた理由を探り、医師に相談しましょう

①目の前のものが食べ物だと認識できていない、あるいは食べ方がわからない場合は、食べ物だと認識ができるように、**声をかけながら一緒に食事を**しましょう。目の前で食べている姿を見せて、**マネをして**もらいましょう。

②ご本人の能力に合わせて、食事の形態を変えると、食べてくれる場合もあります(具材によく火を通して**やわらかく**したり、**つぶしたり**して噛みやすくする、**サイズを小さく**したり**とろみをつけたり**して飲み込みやすくする等)

③入れ歯が合わなくて食事がおっくうになっている場合や、風邪や肺炎などの呼吸器感染症や**薬の副作用**、うつ病などにより意欲(食欲)が低くなっている場合もあります。病気や薬の影響が考えられる場合は、医師に診察してもらい、治療や薬の変更などが必要です。

参考文献：認知症の人と家族の会、認知症になった家族との暮らしかた、ナツメ社、2018、P118-119

杉山孝博、認知症の9大法則50症状と対応策、法研、2013、P80-81

山口晴保、紙とペンでできる認知症診療術、協同医書出版社、2016、P216-217

2022.6作成

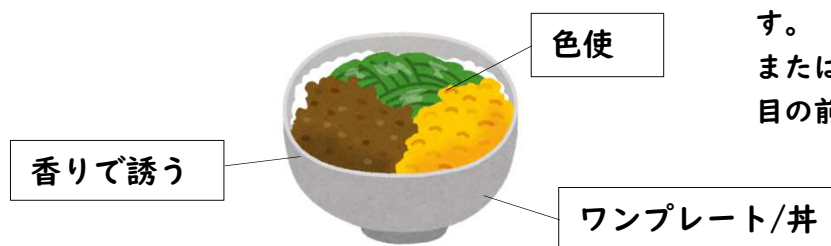


持ちやすさ、使いやすさを考慮したユニバーサルデザインの食器などもあります。介護ショップやインターネットなどで購入できます。

④落ちていて食事ができるよう、椅子の高さ、周囲の音など**環境**を見直しましょう。ただし、環境の変化により食べなくなる人もいるので、模様替えや大きな変化がある場合は、相手が満足しているか、都度確認するようにしましょう。

⑤食事を摂らない理由はさまざまですが、本人はそれをうまく説明できません。思いあたることがないか考え、原因を見つけてあげましょう。そして、栄養が偏っても、本人が好んで食べたいものがあれば、基本的に食べるのを止めなくていいでしょう。

食べ物の認識ができない場合



どんぶりか大きめの皿にご飯とおかずを盛りつければ、一か所に集中して食べることができます。

または、コース料理のように、目の前の一品を食べたら次の一

参考文献：認知症の人と家族の会，認知症になった家族との暮らしかた，ナツメ社，2018，P118-119

杉山孝博，認知症の9大法則50症状と対応策，法研，2013，P80-81

山口晴保，紙とペンでできる認知症診療術，協同医書出版社，2016，P216-217

2022.6作成

ケアのコツ

- ・ 関心表明（無視したり、頭ごなしに否定しない）
- ・ 反復確認
- ・ 共感



参考文献：福島喜代子・結城千晶，事例で学ぶ認知症の人の家族支援，中央法規，2017，P140-141